

# 鳥獣センター通信

2018  
4  
Vol.23

発行元  
鳥獣被害対策支援センター  
電話 099(44)816

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

## 新年度、新たな体制で頑張ります！

「鳥獣被害対策支援センター」は7年目を迎えた平成30年4月に総合農業試験場に引っ越しました。

- 鳥獣被害対策支援センターの重点取組
- ① 被害対策の技術的支援
  - ② 人材の育成(鳥獣被害対策マイスター)
  - ③ 被害対策に関する調査・研究



鳥獣被害対策  
スペシャリスト  
井上雅央氏



(執務室の風景)↓



↑総合農試 管理棟の3階です



(内田副センター長)  
これまでより一歩進んだ取組が出来るよう頑張ります。総合農試の施設環境も活かしていきたいと思えます。



(新任)

(日高センター長)  
「新たな視点に立った鳥獣被害対策」の普及や人材育成、情報の受発信等に努めています。よろしくお願ひします。



(岩佐主査)  
総合農試へ移管初年度になります。現場でさらに実行性の高い被害対策取り組めるよう皆さんと共に頑張ります。



(新任)

(宮坂主査)  
センター一年目です。集落ぐるみで取り組む鳥獣被害への対策。簡単に分かりやすい対策のサポートができるよう頑張ります。



← 林業技術センター  
では6年間(H24~H29)  
お世話になりました

## 電気柵設置の注意点について

柵沿いを歩けばエサにありつける「餌付け柵」にならないようにしましょう！  
例:作物が柵の外から食べられないよう、柵は作物から離して設置します。



市販の支柱を弾性ポールに代えて設置した電気柵です。  
稲穂が垂れても柵線の外に出ないように、2条分程度空けてあります。

電気柵は、設置の仕方を誤ると効果が無いばかりか、獣を引き寄せる目標物になることがあります。  
電圧は4,000ボルト以上、柵線は20cm間隔に張り漏電しないよう雑草管理を行う等、設置上のポイントをお忘れなく。

被害対策に関する問合せ  
西臼杵支庁及び各農林振興局  
各市町村・各農協・各森林組合等

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 児湯地域

平成30年3月29日、西米良村シビ工処理加工施設（旧米良の里跡地）の竣工式が行われました。当施設は、平成28年度中山間地域所得向上支援事業（緑越）により、事業費82,813千円（国庫補助金34,664千円）で建設されました。

中山間地でのビジネスモデル構築と鳥獣被害防止対策を目的にした当施設は、クリーンゾーンを備え、枝肉処理を衛生的に行えるようになっていきます。金属探知機による検査や瞬間冷凍により解凍時のドリップが少ない等安全安心で高品質なシビ工肉の処理加工が行えます。

また、当処理加工施設の運営を安定的なものとするため、平成29年度から西都・児湯地域でのシビ工広域輸送システムの確立に向けた取組を行っています。今後輸送テストを実施しながら

シビ工肉の鮮度・食味の検証を行い、原材料の安定供給と鳥獣被害防止を更に進めていきます。



## 南那珂地域

南那珂管内の鳥獣被害は、イノシシとサルの被害が過半を占めています。特に、サルの対策については、イノシシ対策と比較して防護柵だけでは効果が低く、日常的な追い払い活動を伴う等、多大な労力を要することから、対策がなかなか進まず、被害を抑えることができない状況にあります。

今後、集落の高齢化や人口減少が一層進むと見込まれる中で、サルの被害対策は、まさに集落の存亡をかけた課題となっていることから、ICTを活用した効果的な追い払い対策や侵入防止柵整備の検証に着手しました。

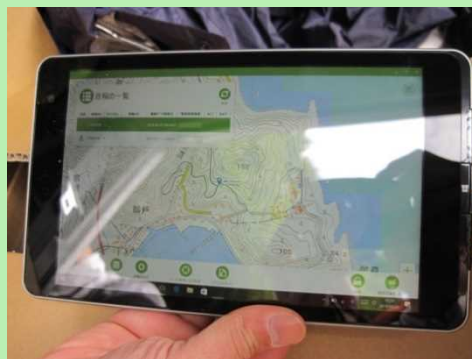
集落をサルから守るためには、サルの出没を的確に把握する必要があります。そこで、日南市鶴戸地区で捕獲したメスの野生サルにGPS発信装置を付けた首輪を装着し、その位置情報をリアルタイムで地図に落とし込むことで、サルの群れの行動範囲等を見える化することを目指します。

今年、2月に調査を開始したばかりですが、時間帯毎のサルの居場所を正確に把握できることが分かってきました。

本事業は、国の「鳥獣被害防止都道府県活動支援事業」（平29）を活用し、首輪装着やデータ収集を担当する民間企業と、捕獲を担当する市の有害鳥獣駆除班との連携を柱に、南那珂地域鳥獣被害対策

特命チームの構成員の協力の下、実施しております。今年度は、蓄積したGPS情報からサルの行動を予測し、効果的な追い払い対策を検討していきます。

近年、鶴戸神宮等の観光地で、観光客などに危害を加えるサルも出没したことから、地域ぐるみでのサル対策の構築に取り組んでいくこととしております。



①サル群れ調査の様子

②位置情報確認用のタブレット